週刊 高齢者住宅新聞
2014年（平成26年）4月2日
Elderly Press Newspaper エルダリープレス ニュースペーパー

リハ型デイ リニューアル

専用機器導入 男性利用者増へ

お達者くらぶ（静岡県御前崎市）はリハビリ型デイサービスに高齢者の機能訓練に特化した専用マシンを導入し、4月1日にリニューアルオープンする。従来のメニューに本格的なトレーニングを加えることで男性の利用を促し、利用率向上と共に他施設との差別化を図る。

お達者くらぶ
松下正男社長

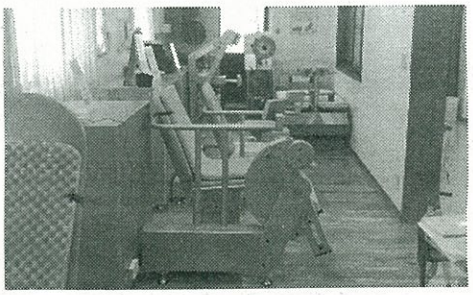
1980年に指圧・電気治療室として創業したお達者くらぶは2003年にリハビリ型デイサービスの運営を開始し、介護事業に参入した。指圧・電気治療室とデイサービスは同一建物。午前中に指圧・電気治療を行い、定員10人の小規模リハビリ型デイサービスは午後のみ営業するという変則的スタイルだった。その後、県からの依頼があり、2009年からは指圧・電気治療室を止め、午前も営業する短時間2部制の現在のスタイルとなった。

リハビリはダンベル、ゴム、バランスボール、平行棒を使ったものや関節の可動域を広げる運動などが行われてきた。また、リハビリ後には指圧・電気治療室を営んできた経験を活かして利用者全員にマッサージを行い、膝や腰に痛みを持つ人にはテーピングを施してきた。

デイサービスは近隣にも複数あるが、リハビリ型デイサービスは同社を含めて2店舗。利用率も約70%と経営的に悪くはないが、更なる差別化を図るため2月に高齢者に特化したリハビリマシン「リハトレーナー」（販売・サロンオールディーズ／東京都中央区）を導入した。導入の背景について松下正男社長は「様々な道具を用いてこれまでに行ってきたリハビリに専用マシンを使った運動を加えることで更に質の高く、きめ細やかなトレーニングが行えると考えた」と話す。決め手になったのは①東京都老人総合研究所が高齢者向けに考案した運動理論に基づくプログラム内蔵の4種類のマシンで効率的に運動を行うことができる点、②個々のリハビリのデータをパソコンで管理できる点、③負荷の設定を自動で行える点、④FCではないためロイヤリティーも無く独自の色を出しながら運営を続けられる点だという。

こだわりの施設

2月末の納品後、3月からは利用者への説明と共に体験会を行っており、リハトレーナーも使えるリハビリ型デイサービスとしては4月1日から正式に営業を開始する。

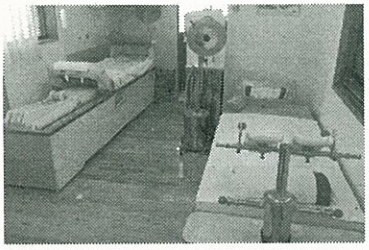


◀リハトレーナーを導入し、男性利用者の増加を狙う

松下社長は「当施設の現在の利用者の男女比は8：2と女性が圧倒的に多い状態。本格的なトレーニングマシンはモチベーションを高く保ちながらトレーニングを続けてもらえる利点もある。男性利用者の増加に繋げ、身体機能の維持・改善を地域の高齢者に更に普及させたい」とする。

今後は利用者がリハビリ開始時に「トレーニングコース」と「のんびりコース」のどちらかを選択できるようなシステムにする方針。身体状況や気分に合わせ、歩行や立ち上がりの基本訓練のみ行える選択肢を設けることで利用者に精神的なプレッシャーをかけないよう配慮する。また、欠席者を減らすため、1ヵ月毎に無欠席者を表彰し、皆勤が半年続けば景品を贈るなどし、楽しみに繋がる部分も増やしていく計画だ。

松下社長は「4月のリニューアルオープンは新たなスタートの第一歩。高い質のリハビリを提供し、介護予防で地域全体に貢献していく。その中で地域が必要とする高齢者施設も探っていきたい」と今後の施設展開も視野に入れる。



▶マッサージ機も好評